

# 検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜わり、厚く御礼申し上げます。

この度、APTT、アンチトロンビン活性の測定試薬販売中止に伴い、同メーカーの新試薬（レボヘムAPTT SLA試薬、レボヘムAT試薬）へ変更させていただきます。また、その他の凝固検査につきましても、報告下限値を変更させていただきますので、下記のとおりご案内申し上げます。

敬白

記

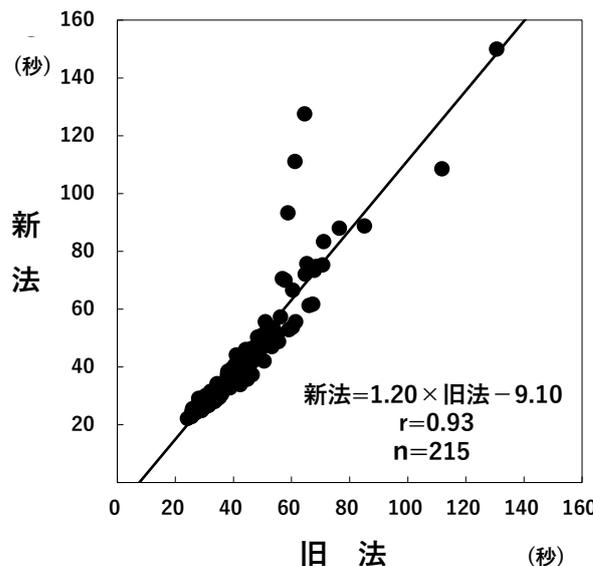
■変更日 令和6年6月3日（月）受付分より

■変更内容

検査項目	変更箇所	新	旧	検査案内掲載頁
2104 活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT） <sup>注）</sup>	基準範囲	24.0～34.0 秒	23.0～38.1 秒	p130
	報告上限値	200.0 以上 秒	150.0 以上 秒	
	報告下限値	21.0 未満 秒	22.9 以下 秒	
2110 アンチトロンビン活性	報告下限値	10 未満 %	9 以下 %	
2101 プロトロンビン時間（PT）		7.0 未満 秒 活性値 3 未満 % INR 0.60 未満	7.0 以下 秒 活性値 3 以下 % INR 0.60 以下	
2106 フィブリノゲン定量【Fib】		50 未満 mg/dL	50 以下 mg/dL	
7118 Dダイマー		0.50 未満 μg/mL	0.50 以下 μg/mL	

注）新試薬は、未分画ヘパリン、ループスアンチコアグラント(LA)及び低濃度の凝固因子低下(特に第Ⅷ因子)に対する感受性が高い特徴があり、何らかの異常を含む検体においては既存の試薬より APTT が延長する可能性があります。

■APTT 相関図



以上

※お問合せ先：029-837-2721 総合インフォメーション  
2024-A-022